

事務事業名	美術博物館教育普及事業		会計	一般会計	実施区分	継続		
			事業種別	政策	開始	終了		
H29作成課等名	美術博物館	H29係等名	学芸係	H28担当課等名	美術博物館			
基本計画上の位置づけ	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり					
	施策	29	ふるさと意識の醸成					
目的	対象(誰・何を)	1 飯田下伊那広域圏の地域住民(一般市民、高校生、小中学生)			対象指標	指標名及び単位	28年度数値	
	意図(どうい状態にするか)	1 館の調査研究の成果を市民に還元し、あるいは支援して、自然・文化・芸術への関心と理解を高める				圏域住民数(人)	160827	
	向上させたい上位施策の成果指標	1 飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)						
目標	種別	指標名及び単位		27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	主催事業あるいは館・学芸員が関わった教育普及活動の数(回) (*プラネタリウム上映・考古博物館は除く)		350	350	350	277	
	成果指標	主催事業あるいは館・学芸員等が関わった館内外事業の参加者数(人) (*プラネタリウム上映・考古博物館は除く)		12000	9862	12000	8505	
	定性目標							
事業概要	<p>1 美術博物館の調査研究活動の中で蓄積された研究結果や情報、展覧会などで展示される作品や資料について、その特性や魅力を講座・講演会などで紹介する。</p> <p>2 子ども向けの講座・教室・学校訪問などを実施し、伊那谷の自然と文化への学習意欲を高める。</p> <p>3 小中高校・大学・かわらんべ・地域のまちづくり委員会・地域サークルなど諸機関・諸団体の要請に応え、授業や講演・現地案内などを行う。</p> <p>4 伊那谷の希少生物生息地・露頭・遺跡・社寺・歴史・民俗などの保存と活用に関する事業を行う。具体的には南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの研究と整備を地域住民と共同しながら実施する。</p>							
28年度事業内容	事業内容				名称		活動指標	
	<p>1 一般対象講座等 (1)美術講座 4回、(2)美博文化講座 12回、(3)信濃の歴史講座 4回、(4)古文書講座 12回×2班、(5)自然講座 12回(自然史発表会を含む)、(6)第9回びはく学芸祭 1回</p> <p>2 子ども対象講座等 (1)第11回美博まつり 19ワークショップ×2日、(2)子ども科学教室 4回、(3)日本画ワークショップ 1回、(4)子ども写真学校 1回、(5)宇宙をのぞこう 5回</p> <p>3 その他 美博小中高校生写真賞、小中学校連携事業(県展・郡展作品展示)、ジオパーク看板設置</p>				<p>1 一般対象講座数</p> <p>2 子ども対象講座数</p> <p>3 その他</p>		<p>1 57回</p> <p>2 49回</p> <p>3 3件</p>	
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足		
事業費計(千円)①		3,876	4,292	3,811	0	(そ) 過疎地域自立促進基金繰入金 1,500千円 (そ) 美術博物館講座受講者負担金 246千円 (そ) 諸収入 100千円		
国庫支出金								
県支出金								
起債								
その他		361	2,601	1,846				
一般財源		3,515	1,691	1,965				
人件費計(千円)②		0	0	0	0			
正規職員所要時間								
臨時職員所要時間								
総事業費①+②		3,876	4,292	3,811	0			
事業内容・目標達成状況の振り返り	講座の見直し改善により開催回数は減り、参加者数も減少しているが、一講座の参加者数は増えており効果が現れている。第11回美博まつりも1,865人の参加があり盛況であった。							
改革改善の考え方	①問題点	講座などへの参加者が高齢化し減少している。一般向けの主催講座では受講者が固定化する傾向にある。学校教育との連携の面ではまだ十分でない。広報が十分でない。						
	②改革提案	伊那民俗学研究所・伊研協との協力関係を保ちながら、次世代とのつながりも模索する。講座の内容や回数などを見直し、魅力向上や効率化・適正化を図る。HP・飯田市広報などを活用して事業の広報に力を入れる。						